

地方自治とはなにか

1 「自治」の意味

最初に、「自治」の意味を考えてもらいましょう。「自治」とは、「自分たちのことは自分たちで決める」ことです。ですから、地方自治とは、国からは独立した地方公共団体（自治体）が、自分たちの地域に関することは可能な限り自分たちで決めていくという理念のことです。

2 地方自治が必要な理由

(1) 国と地方

次に、なぜ国ではなく、地方が決める必要があるのか、考えてください。ここでよく耳にするのが、「国=悪、地方=善」と決めつける議論です。つまり、「国の政治家と霞が関官僚が結託してその利権のために地方を食い物にしているから、地方は正義を守るために自立しなければいけない」というような、いわば陰謀論の一種です。

しかし、この議論は単純にすぎると思います。国というのは日本国民の集合体です。政治家（ここでは国会議員）とは日本国民すべての代表であり、霞が関官僚はその手足となって働いているにすぎません。国民の代表として選挙で選ばれた国会議員が行っている国の政治を、単純に「悪」と決めつけられる根拠はどこにあるのでしょうか。

自治体は、地域の住民の集合体であり、そこにも選挙で選ばれた政治家（長や議員）がいます。自治体職員が働いています。地方にも利権はあり、この構図は、国とほとんど変わりません。そうだとすれば、「国が悪い」という論理は、地方にも同様にあてはまるはずで、地方の政治家と自治体職員が悪いこ

とを企てれば、地方でも、住民を食い物にする政治は可能です。それなのになぜ、地方の判断が国よりも正しいといい切れるのでしょうか。

誰か共通の敵をつくりあげて結束を求める陰謀論は、単純で理解しやすいので、たちまち人の心に浸透します。しかし、地球上から争いが絶えない最大の理由を考えてみましょう。「自分たちの暮らしが苦しいのはキリスト教の西洋文明のせいだ」とか、逆に「イスラム教徒が移民としてやってくることで、自分たちのしごとが奪われている」といったような単純なレッテル貼りによって、誰かを憎まなければやっていけないという心理が生まれるからです。このことは、常に心に留めなければいけません。

もちろん、世の中にはいろいろな人がいます。「国の省庁に問い合わせたら、高圧的な対応をされた」とか、「国の役人は現場のことを全然理解していない」といった不満は、今後、出てくると思います。私も、出向のようなかたちで国の省庁に1年間勤務したことがあって、いろいろと嫌な経験もしました。しかし、その何十倍も、貴重な経験をさせていただきました。世の中は、そう単純ではありません。「何もかもあいつら（=国）が悪い」と決めつけたところで、生産的ではありません。いろいろな人がいることは前提とした上で、それでもなお、国と地方を良くするためにどうしたらよいか、協力を模索していかなければ、何にもならないと思います。民間の人からすれば、みなさんのような自治体職員も、霞が関官僚も、同じ「公務員」として一緒にくくられるのです。「公務員ばかり、安定して給料をもらって、おかしいじゃないか」という民間の人の声は、いつも気にしていかなければなりません。

日本経済の停滞と人口減・少子高齢化社会の到来で、国にとっても地方にとっても、税収が伸び悩む反面、社会保障費などの支出が増加し続けていることは、対策を練らなければならない課題です。国からの補助金が削減されたりして、地方には不満がたまっていることでしょう。しかし、国の側にも「無い袖は振れない」事情があることは、理解しなければなりません。国と地方は、ともに日本国民（そして地域住民）の暮らしを良くしていくために、対立するのではなく、互いに協力していかなければならないのです。